

編集後記

●木下哲(社)全国上下水道コンサルタント協会会長にメッセージをお願いしました。海外の事例を見据え、既成概念にとらわれないビジネスモデルの考え方やモデルチェンジについてのご意見を、ユニークな視点でざっくばらんに語っていただきました。

●本機構の取り組みの一環である事業報告会の特別講演の概要を掲載しました。内容は、京都大学・津野洋教授による「下水汚泥資源化の現状と課題」。環境問題の意識に対する問いかけから、資源循環型社会を構築する必要性について、また下水汚泥のエネルギー化やリンの回収技術などについて、幅広い見識やデータを交えて詳細に分析しています。

●エンジニアングレポートは、横浜市北部処理区・千若末広線整備工事に伴う試験施工に関する研究です。同整備工事の現場は、狭小空間であることに加えコンクリート構造物などの取り壊し作業もある難工事でしたが、現場作業の安全性や施工性などを勘案し模擬トンネルを製作し、安全かつ効率的な作業が行われました。なお、この現場は日経コンストラクション誌にも取り上げられました。

●新研究テーマは、美濃加茂市の処理場で行われている「下水汚泥の燃料化システムの実用化評価」と、多様化するリスクに対応するシステムの導入方法などについてまとめた「リスク管理を考慮した監視システム」に関する共同研究を取り上げました。

●トピックスでは、堺市の三宝下水処理場を中心に行われている再生水送水事業の概要と現在の状況を

紹介しました。

同処理場では、昨年8月から3万4,000m³の高度処理水を工業用水や散水用水として供給するという国内最大規模の再生水送水事業がスタートし、関係者の注目を集めています。この再生水送水事業は「環境モデル都市 クールシティ・堺」の実現をめざす取り組みの一環として位置づけられており、堺市では年間1,200万m³の処理水を再生水として利用することで約6,500tのCO₂削減につながるとしています。

●インプット・アウトプットはシンガポール国際水週間「SIWW2010」への参加報告およびポーランド共和国の下水道調査です。前者は国際的イベントであるSIWW衛生ナレッジハブ・セミナーや日本ビジネスフォーラムなどに参加した経験を報告。一方後者では、ポーランド共和国の下水道実施状況および今後の事業展開についての調査が詳細に述べられています。

●ユーザーレポートでは、ノッチチェーン式汚泥掻き寄せ機を取り上げました。汚泥掻き寄せ機は下水中という比較的厳しい腐食環境で使用されるため、機械寿命が短い傾向にあります。近年の低コスト・省エネルギーの社会的要請に合致して注目を集めつつあるのが「ノッチチェーン式汚泥掻き寄せ機」です。同装置を導入した利根流域下水道事務所を訪ね、その特長についてまとめました。

(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子どもの写真をシリーズとして紹介しています。

写真のお子さんは、澤野哲也堺市上下水道事業管理者のお孫さんの真菜夏(まなか)ちゃん(3歳)とその妹の香凛(かりん)ちゃん(1歳)です。

真菜夏ちゃんはアニメの「アンパンマン」が大好きで、アンパンマンやその仲間のキャラクター達に夢中になっているそうです。妹の香凛ちゃんは、そんなお姉さんが大好き。いつも後ろからくっついて回っては、お姉さんの真似ばかりしています。

この写真は、家族で豊中市の服部緑地公園に遊びに行ったときのスナップです。風に舞うシャボン玉を目で追いかけている二人の表情からご両親の深い愛情が伝わってきますね。

題 字

(財)下水道新技術推進機構会長・中村満義
(鹿島建設株式会社代表取締役社長、(社)日本
土木工業協会会長)の揮毫によるものです。

下水道機構情報

Vol. 4 No. 13

2010年11月(秋冬号)

平成22年11月25日発行 発行者 中村満義

編集者 石川忠男

企画者 江藤隆

編集委員：神原 浩／中里 卓治／竹内 徹也／
松葉 秀樹／田之倉 誠／南 政慶／深尾 俊示

発行所 (財)下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階

TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512